

お江戸日本橋創架四〇〇年 6

栃木市・倭町「静御前」 8

栃木市・萬町「劉備玄德」 8

室町一丁目会 10

日本橋一丁目町会 12

日本橋二丁目町会 13

日本橋三丁目西町会 14

八重洲一丁目東町会 15

日本橋小舟町町会 17

対談

〳江戸噺あれこれ〳 38

一区一番組組頭・西出幸二
作家・森まゆみ
神田倶楽部会長・田畑秀二

寄稿

母と曾祖父を偲びつつ神田の町が身近に感じました 118

人形師「仲秀英」の曾孫 斎藤道子

神田祭 20

東日本橋・船渡御 20

岩本町一丁目町会・我が町会の開府四〇〇年 22

東神田・花万燈 28

木札制作裏話 120

二世 後藤 錦

小舟町・大提灯 32

江戸天下祭 46

東京都千代田区 50

・九段三丁目町会「牛若丸」

・三番町町会「東郷元帥」

・九段四丁目町会「弁慶と牛若丸」

・神田松枝町町会「羽衣」

青梅市・森下町「武内宿禰」 56

遠州横須賀 64

・河原町「川中島」

・東田町「五條大橋」

熊谷市・本三四「戸隠」 72

鴨川市・山王講「恵毘寿」 80

川越市・志多町「弁慶」 86

加須市・本町「蘭陵王」 90

青梅市・仲町「静御前」 94

石岡市・金丸町「辨財天」 98

本庄市・仲町「神武天皇」 104

八王子市・八幡町一・二丁目「諫鼓鳥」 110

鴨川市 横渚・前原 諏訪講「神功皇后」・「源頼義」 114

目次 CONTENTS

江戸神輿の競演 (p48)

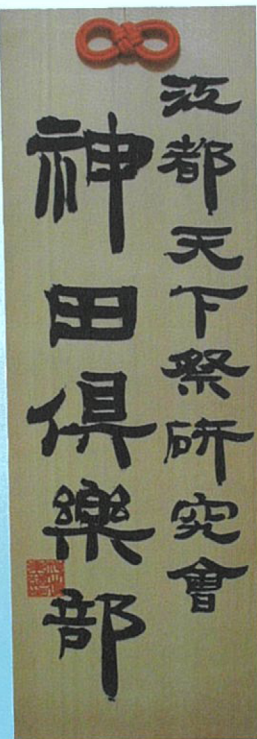
女みこし（須田町中部町会）
平河町一丁目町会神輿（麴町出張所地区連合会）
飯田橋町会神輿（富士見地区町会連合会）
岩本町一丁目大和町会神輿（岩本町東神田町会連合会）
司町二丁目町会神輿（神田公園地区連合町会）
神田五軒町々会神輿（萬世橋地区連合町会）
神保町三丁目町会神輿（神保町地区連合会）
東松下町々会神輿（神田駅東連合町会）
神田和泉町町会神輿（秋葉原東部町会連合会）

あとがき 121

編集後記 122

◆付録・納札に見る天下祭山車

・江戸開府四〇〇年に帰ってきた天下祭の山車



◆山車の名称等は各地域よりご教示頂いた名称を用いています。また、文中、江戸開府四〇〇年記念事業として行われたパレードを総称し、「江戸天下祭」と表記してあります。本誌及び付録の無断転載を堅くお断り致します。

江戸天下祭研究会 神田倶楽部

天下祭に蘇る武内宿禰

明治以降百余年の間守り受け継がれてきた町内結束の証

青梅市 森下町

江戸開府四〇〇年

——天下祭参加のこと

神田明神・山王権現・根津権現の祭は「天下祭」として全国に伝え広まり、注目を浴びていたが、明治維新や震災などではほとんどの山車はなくなり神輿の祭となってしまう。しかし「天下祭」と同様の山車祭は、全国各地に受け継がれ、数多く残っていて、武州青梅もそのひとつと数えられている。

江戸の町々から山車が散逸していく中で、青梅縞、木材取引など江戸との深い交流のあった青梅の地に、明治初年に山車と人形が譲り渡され以後百数十年、勇壮な囃子とともに祭の主役として受け継がれてきた。明治後期に江戸型から屋台型に改造されたものの、森下町では各品もほぼその当時のままの姿で残されている。千代田区の調査が早い時期にあり、「青梅の山車と千代田の山車」や「江戸型山車のゆくえ」

として上梓されている。そのことから今日でも青梅の山車は常に各種の文献でも触れられているのである。

今回、天下祭に際し、森下町山車人形は神田神社（神田明神）から、江戸天下祭に使われたものとして認められ、特別に認定書をいただいている。町内の多数が巡行や展示に参加して、見物に集まられた多くの皆様に経緯などをお話する際にも、この書状は大いに役立ち、「難しい講釈」「能書き」はいいという方には笑顔と感動で迎え入れられた。

森下町山車人形

「武内宿禰」のこと

平成一五年一二月、江戸開府四〇〇年天下祭にあたり、日比谷公園内の御飯屋に展示した森下町山車人形は、日本神話や紙幣にも登場の「武内宿禰」が今まさに海に満珠を投じる瞬間のもので、明治四年ごろに武州青梅の森下町が



江戸天下祭

神田三河町四丁目（現司町二丁目）から購入したものである。明治以後百余年の間「町内結束の証」として、守りつづけられている。山車人形「武内宿禰」の腰の太刀の鍔には嘉永元年（一八四八）戊申九月に寄進、大和屋吉右衛門の銘が刻まれている。なお、山車幕や附属する祭礼道具などの箱書き刺繍などにも、三河町四丁目のものと確認できるものが数多く残っている。それらから確かに嘉永元年（一八四八）九月に造られ、江戸天下祭の神田明神祭礼番附安政六年（一八五九）三十一番の応神天皇を抱く姿にかわるまでの間、江戸城内に入り、時の將軍の上覧を受けたものであると考えられる。購入時の資料は、現在目にすることはできないが、今回の天下祭の展示を機に新たな資料の発掘に

（撮影：和田義男）

